

令和4年度 自己評価表【最終評価】

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的生活習慣の確立による、生徒の自己管理能力の育成 2 夢と希望を持ち、世界を広げていくことのできる生徒の育成 3 社会のルールやマナーを遵守する生徒の育成 4 基礎・基本の重視による、生徒一人一人の学力の向上 5 生徒が将来の生き方を意識する進路指導の充実 6 自律性を伴った、生徒の自主性の育成 7 自然環境について考え、行動することのできる生徒の育成 	<p>今年度の重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的生活習慣の定着を促す。 2 生徒が主体的に取り組む授業づくり、深い学びにつながる授業づくりに取り組む。 3 個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実を努める。 4 視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実を努める。
--	---

年 度 当 初		評 価 結 果 (1)月					
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善策
基本的生活習慣の定着	生活の自律	<ul style="list-style-type: none"> ○学校では時間を守ることができる生徒が増えているが、決められた時間に行動できない生徒も、まだ若干数いる。 ○教室等の環境整備は、善段の清掃などによりきれいに保たれている。 ○食堂のゴミ出しの状況等をみると、ごみの分別等環境配慮行動に対する意識は、まだ十分とは言えない。 ○定期的な生徒個人ロッカー内の点検と整理指導により、教材管理が身に付きつつある。 ○就職率が9割以上の生徒が72%。一方、約50%の生徒がスマホやゲーム等を一日時間以上使用している。 ○むし歯の治療率=24%と低い状況にある。(全校 R3) ○約30%の生徒が「週1回以上、歯をみがかないで寝ることがある」 	<ul style="list-style-type: none"> ○規則正しい生活を送ることができている。 ○基本的生活習慣(時間・挨拶・マナー等)について考え、行動できている。 ○環境美化に関心を持ち、身の周りの整理・整頓・清掃ができていく。 ○自分自身の健康管理に関心を持ち、健康状態の向上に努めることができる。 ○むし歯の治療率が向上する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的な日常の声かけや挨拶、丁寧な面談を通してコミュニケーションの具体例(対人関係における挨拶や対話)を提示し、習慣づけに努める。 ○「緑チャレ12」を運動し、基本的な生活習慣の指導(5月・11月)を行う。 ○身の周りの整理、整頓、ゴミの分別の徹底を指導し、環境美化に努める。 ○ライフスタイル調査による生活実態の的確な把握と分析を行う。 ○むし歯の治療について、担任をはじめとする全教職員で個別指導や声かけを繰り返す行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「あいさつや時間を守る、身の回りの美化を心がけている」と回答した生徒の割合は95.9% (前年+10.2ポイント)と高い値である。 ○「緑チャレ12」でスマホ・ケータイ(4月マナーアップ・5月スマホ依存)について学校全体で取り組んだ。 ○「ゴミの分別や持ち帰り等考えて行動している」と回答した生徒の割合は91.2% (前年+6.1ポイント)と高い値で、食堂のゴミの状況も改善されつつある。 ○考え期間に合わせ、ロッカー内の荷物の持ち帰り、整理を指導した。 ○う歯(むし歯)保有者に対し、担任をはじめとする全教職員で個別指導や声かけをくり返し行い、懸談等において保護者にも説明を行った。昨年度からの継続した指導の結果、う歯(むし歯)保有者は減少している。 【全校】 R4 う歯(むし歯)保有者 48% (参考 R3 57%) R4 治療率 16% (1月末現在) (参考 R4 23%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「緑チャレ12」等を利用して、基本的生活習慣の定着・自立へ向け、引き続き粘り強く指導をする。 ○放課下時や日常的な挨拶・声掛け、面談を継続し、対人スキル獲得の一助とする。 ○公共物を大切に使用したり、身の周りの美化やゴミの分別の徹底、環境美化、整理整頓について引き続き指導を行う。 ○ライフスタイル調査を実施し学校全体の健康課題を把握するとともに、生徒に自分自身の生活習慣について考えさせる。 ○「歯と口の健康」について、個別指導や声かけ、生活習慣の定着と合わせて引き続き指導を行う。
	生徒が目標を持ち主体的に取り組む授業づくり	個に応じた学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○「授業は工夫されていてわかりやすい」と回答した生徒の割合は88.1%、教職員の「事な対応」については92.7%と高い数値であった。 ○課外指導に継続的に取り組み、力をつけてきている生徒もいる。 ○「まなトレ」の取り組みは、年次によって様々で、低年次については検定や資格が、互いに教えあう姿も見られた。また、学び直しや進路実現にも活用している。 ○前年度の年間の単位修得率は定時制が69.1%、通信制は82.3%程度どちらも目標以上であった。 ○多くの授業でICTを活用しているが、生徒のスキルの向上には至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会生活を営むために必要な基礎学力を身につけている。 ○上級学校の入学試験や就職試験に対応できる学力を養成している。 ○「授業は工夫されていてわかりやすい」と回答した生徒の割合75%以上が継続している。 ○選択した科目を卒業しない環境を醸成する。その結果、定時制生徒の単位修得率は65%以上、通信制生徒の単位修得率は70%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒個々の進路希望を把握し、課外指導や個々に合った模試を計画的に活用するよう、学年・部課程と連携し支援する。 ○公開授業を促進して、主体的な学びや対話的な活動や探究活動のきっかけにつながる。 ○「まなトレ」や課外指導により基礎学力の向上を図り、生徒が将来の生き方を見つめる一助となるように努める。 ○毎日の声掛けや面接準備、指名登校時に面談を行うとともに、教職員間の情報交換を頻回に行い、生徒理解に努めて個別に状況に応じた指導を行う。 ○ICTのさらなる活用により、生徒の状況に応じた学習指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課外指導や個々に合った模試を計画的に活用した。校外模試受験者延べ人数は、昨年20名から42名に増えた。また、通信制では、進路希望者のみならず、レポート提出に苦労している生徒に対しても、平日に学習指導を行った。 ○授業公開期間を2回設定した。「授業は工夫されていてわかりやすい」と回答した生徒の割合は83.9%であり、昨年と同様に高い数値である。 ○「まなトレ」については、年次毎に就職・進路問題集、各種検定の過去問題など自主的に取り組めるものとし、自らのペースでよく取り組めた。 ○定時制では年間に6回の担任による生徒面談を実施した。「教員が質問や相談に丁寧に応じてくれる」と回答した生徒の割合は95.3%で前年度と同様に高い数値である。 ○ICT活用職員研修を3回実施した。ICTを活用した授業の頻度は高まり、活用技術も向上している。 ○定時制の単位修得率は77.5%(9月)である。目標(65%)以上 通信制の単位修得率は78.9%(9月)である。目標(70%)以上 	A
意欲向上と自信づくり	意欲向上と自信づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○資格取得を促し、「まなトレ」を活用して準備の学習を行っているが、受験する生徒は多くない。その中で、漢字能力検定や検定試験や情報処理検定など、授業に関連して受験できるものや希望進路に関連する検定など、多様な検定などに挑戦した。 ○特別支援教育支援員のサポートにより、生徒が安心して授業に取り組めた。 ○「本校での高校生活に満足している」と回答した生徒の割合は、89%で目標以上の達成率であった。 ○外部講師による授業やガイダンス・体験活動は、生徒の意欲向上につながった。 ○進路に関する講演会、講習会などは生徒の進路意識を喚起する良い機会となっているが、意識の継続、具体的な行動にはなかなか繋がらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○勤労観・職業観が育ち、希望進路の実現に向け努力している。 ○「まなトレ」を推進する(α:資格取得等)、各種資格試験、検定の案内を行い、意欲のある生徒に対して個別に受験を勧め、受験者には個別の支援を行うなどきめ細かい指導を行う。 ○生徒の実態や課題に即した外部講師による講演や、体験活動の推奨を行う。 ○特別支援教育支援員による授業のサポートをおして、学習意欲の向上につなげる。 ○学生教育ボランティア(緑風ソソコ)による学習指導補助の充実を図り、学習意欲の向上につなげる。 ○低年次より将来について具体的に考える機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「勉強+α」を推進する(α:資格取得等)、各種資格試験、検定の案内を行い、意欲のある生徒に対して個別に受験を勧め、受験者には個別の支援を行うなどきめ細かい指導を行う。 ○生徒の実態や課題に即した外部講師による講演や、体験活動の推奨を行う。 ○特別支援教育支援員による授業のサポートをおして、学習意欲の向上につなげる。 ○学生教育ボランティア(緑風ソソコ)による学習指導補助の充実を図り、学習意欲の向上につなげる。 ○低年次より将来について具体的に考える機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資格取得等について、「緑チャレ12」などいろいろな機会に案内をした。漢字検定は本校実施が1回のみとなり受験者は減少した。家庭科や商業科の科目に関連した検定も多様な検定等に挑戦した生徒がいた。進路開業予定生における1種以上資格・検定合格者の割合は44%(1月末)であった。 ○特別支援教育支援員による、生徒への授業時間内外の声掛け、支援活動により、落ち着いた生活や学習意欲の向上につながった。 ○ボランティアで人数は少なかったが、1名の緑風ソソコの学習指導補助(1学期)により、生徒の学習意欲が向上した。 ○「高校生活に満足している」と回答した生徒の割合は、92.6%であり目標値を上回った。 ○卒業後のことを考えて準備のために何かを始めている。生徒の割合が13ポイント増加しており、進路を意識して具体的な行動を取る生徒が増えている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各種検定、資格取得の意義を分かりやすく生徒に伝え、「緑チャレ12」などをおして積極的な受験を奨励し、早急の案内や支援を行う。 ○ガイダンスや担任、進路による面談を計画・実施し、資格取得や体験活動を推進する。 ○引き続き、生徒の実態や課題に即した外部講師による講演や体験活動を行う。 ○生徒が自信を持てるような場面で前向きな評価を与え、落ち着いた生活や学習意欲の向上につなげる。
	個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実	自立をめざす生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの生徒が挨拶を心がけ、お互いを思いやって過ごす雰囲気醸成されてきている。 ○「ルールやマナーを意識した行動をしよう」と回答した生徒の割合は93.0%であり、目標値を上回った。 ○就職活動をする生徒の大半は、様々な進路行事への出席や面談を通じて自己理解を深め、就労への意識も高めている。 ○日常生活における小さな目標を記した「チャレンジシート」は、自分の改善点を意識させ、その改善に向け一歩を踏み出す気持ちも喚起している。 ○様々な進路学習の機会を提案、勤労観、職業観の育成に努めているが、進路目標が明確な生徒は多くはない。 ○日常生活における「スモールチャレンジ」への取り組みは十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会で通用する行動・ルールやマナーの向上の指導をおとして、お互いを思いやる心や自律性と自主性が身につけている。 ○「ルールやマナーを意識した行動をしよう」と回答した生徒の割合75%以上が継続している。 ○進路意識を喚起し、勤労観・職業観を育成し進路目標が明確になっている。 ○身近にある差別やいじめに気づき、その解消に向けて取り組んでいる。 ○進路指導などの個別指導において、自分のことを理解し自分らしく生きていけるような力を身につけている。 ○生徒は「チャレンジシート」を活用し、自分の課題を意識し改善しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりとのかかわりを大切に声かけや挨拶を交わし、他者を思いやるような活動ができるよう努める。 ○規範意識が身につくよう、ルールやマナーについて適宜指導する。 ○進路ガイダンス、進路LHR、CA面談などで自己理解を深めさせ、キャリア設計能力や社会性を育成する。 ○生徒個々に応じた校内の支援体制を確立するとともに、外部機関と連携しながら進路実現に向けた機会をつくる。 ○人権教育LHR・人権学習講演会等を充実させることにより、人権意識を高める。 ○身に着ける差別やいじめに気づき、その解消に向けて取り組んでいる。 ○進路指導などの個別指導において、自分のことを理解し自分らしく生きていけるような力を身につけている。 ○CA面談、緑チャレ12、進路だより等でスモールチャレンジの意識喚起を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの生徒が挨拶を心がけ、お互いを思いやって過ごす雰囲気醸成されている。 ○「ルールやマナーを意識した行動をしよう」と回答した生徒の割合は96.0% (前年+5.7%)、また、「自分の身の回りの生徒は、以前よりルールやマナーを守るようになっている」とについては、83.1% (前年+2.6%)であった。ルールやマナーが定着し始めたと考えられる。しかし、2つの質問に対する肯定的回答の差は前年9.8ポイントから12.9ポイントと拡大しているため、注意が必要である。 ○職場見学やインターンシップへの個別支援や、就労支援により、進路決定につながった。 ○継続的なCA面談や進路ガイダンス等は自己理解と進路意識喚起の一助となった。 ○卒業後のことを具体的に考えたい」と回答した生徒の割合が10.7ポイント増加した。進路目標が明確になっている生徒が増えている。 ○いじめアンケートの実施により、いじめのみならず、問題行動等の早期発見に努めた。 ○進級指導により自らの課題を理解し向き合う力が育った。 ○チャレンジシートの活用状況は学年によってさまざまだが、面談を継続しながらスモールチャレンジに取り組む生徒もいた。 	A
視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実	体験活動の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○「TEAS II」(鳥取県環境管理システム)の環境改善目標は概ね達成できている。 ○緑風祭や球技大会など、生徒会執行部が中心となり企画・運営ができた。 ○定通総体、県高等学校生徒会連盟大会では、バレーボールなどの競技で好成績を取った。男子バレーボール部は、全国大会に出場した。 ○アルバイト研修を通じ社会性を身につけていく生徒も多い。インターンシップに参加した生徒は、自信を得たり、自分の課題を認識するなど一定の成果を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境目標を達成するための具体的実践を全校で進め、省資源「エネサール」・SDGs(持続可能な開発目標)に関する意識が高まっている。 ○授業や学級活動、生徒会活動、学校行事等にそれぞれの生徒が積極的に関わっている。 ○アルバイトやインターンシップなどの社会体験に取り組み、コミュニケーション能力が向上したり、自信を持つ生徒が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「TEAS II」を適切に運用しながら、環境美化に配慮した実践、エコ活動の推進などを、教職員および生徒が率先して行う。 ○学校行事や「緑チャレ12」をおとして、部活動、生徒会の活性化をはかる。 ○委員会の活動内容を示し、生徒会執行部が中心となり主体的に企画運営できるように支援する。 ○学年や教育相談部と連携して情報を共有しながら、生徒個々の状況に合わせ、アルバイト、インターンシップのいずれかを原則2年次終了までに体験するよう推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が率先して現場問題に取り組むとともに、環境LHRを実施し意識の向上をはかった。 ○定時制では年次や教育相談部と進路指導部との連携により、特に2年次でのインターンシップを促進でき、個々の課題の認識や意欲の向上に繋がった。またアルバイトを探している生徒の支援も行った。一方で、通信制では声をかけてもなかなか一歩が踏み出せない生徒が多量、経験不足から就職の内定を得づらい状況があった。 ○生徒会執行部の生徒が中心となり、緑風祭の企画・運営を行うことができた。また、県生連大会についても主体的に取り組んだ。 ○学校生活発覚標語、ポスターを生徒会で募集し、ルール・マナーの向上を呼びかけた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○SDGsについて授業など様々な場面で生徒に説明するとともに、環境に配慮した行動に教職員が率先して取り組む。 ○緑風祭や学校行事などで、生徒が主体的に話し合ったり、協力して活動できる場面の設定を行う。 ○定期的な生徒状況を把握し、CAのサポートを得ながら面談や体験の推奨等個別の支援を行う。
	グループへの適応力の育成	グループへの適応力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒面談前にhyper-Q研修を行い、結果をクラス経営に活用している。また、ユニバーサルデザインを学習環境や授業に取り入れ、「わかりやすい授業」の展開に努めている。 ○問題行動等に対し、担任のみならず、学年団、生活指導部、教育相談部、養護教諭、S・S・Sが連携して、保護者連絡をこまめに行い、連携を密にしたがら生徒指導に取り組んだ結果、「安心して通える学校だ」と回答した生徒の割合が90.2%だった。 ○SCによる1年生、2年生対象の定期面談を実施し、またSSWの校外機関への訪問・連携、担任の家庭訪問同行等を実施し、生徒状況等の把握に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回実施するhyper-Qにおいて、強い孤立感や孤独感が示唆されている生徒の数に顕著な改善がみられる。 ○鳥取緑風高校は、安心して通える学校だ」と回答する生徒の割合75%以上が継続している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○hyper-Qや生徒実態把握の結果を生徒面談やクラス経営に積極的に活用する。 ○保護ハートフルなどの活動をおして他者とのかかわり合い、人間関係づくりを促す。 ○担任とSC、SSWとの協力によって家庭訪問や校外専門機関との連携を強化し、生徒の割合75%以上が継続している。 ○転入生や、長期欠席の生徒についてはできるだけ早期で面談を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定時制ではhyper-Q研修を行い、生徒状況の把握と課題の改善に努めた。その結果、学校生活不満足群の生徒数名の孤立感が改善された。 ○「安心して通える学校」と回答した生徒の割合が92.6%であり、目標を大きく上回った。 ○ユニバーサルデザインを学習環境に取り入れることに努め、保護者の協力を得ながら生徒達の活動が円滑に行えるよう支援した。 ○問題行動等に対し担任のみならず、学年団、生活指導部、教育相談部等と連携し、保護者連絡をこまめに行い、生徒指導に取り組んだ。 	A
業務改善の取組	時間外勤務時間の削減	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月開催している衛生委員会での結果を報告し、校内掲示板に掲載し報告した。 ○時間外業務時間月45時間以上の者10人。 ○職員室のレイアウトの変更を行い、講師の机を確保した。 ○会議は1時間以内で終わるよう取り組んだ。 ○学校行事等により長時間勤務となる時期がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○業務の削減、簡素化、見直しを行い、業務が効率的に行われる。 ○担当内での情報共有を充実、年次有給休暇を取得しやすい環境となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○衛生委員会での結果を校内掲示板で全職員に周知する。 ○管理職は、日ごらら教職員の業務状況し、給与動志システムによる勤務状況を把握し、時間外業務の多い職員には声かけを行う。 ○会議の効率化、業務の精選を意識した行動を心がける。 ○長期休業中、審査中の年休取得の呼びかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○衛生委員会での結果を校内掲示板で報告した。 ○時間外業務月45時間を超える職員は少ないが、分掌によって多忙な時期があり、業務量の増える職員がいる。 ○時間外業務時間が前年度と比較し縮減した。 ○会議の多くは、短時間で効率よく行われた。 ○審査中、長期休業中の年休取得を呼びかけた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT等を活用し、情報共有を行い、会議の報告や連絡事項の削減に努める。 ○事前の会議資料の整理や持ち回り会議について検討する。 ○連携が円滑に行われ、組織的に機能するよう業務の見直し、簡素化を行う。

※ 緑風ハートフル:校内での人間関係づくりのための体験活動

※ まなトレ:高校での学習内容の学び直しのための教材

※ 緑チャレ:緑風チャレンジ12(強化月間)

評価基準 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆(60%程度) D:まだ不十分(40%程度) E:目標・方策の見直し(30%以下)